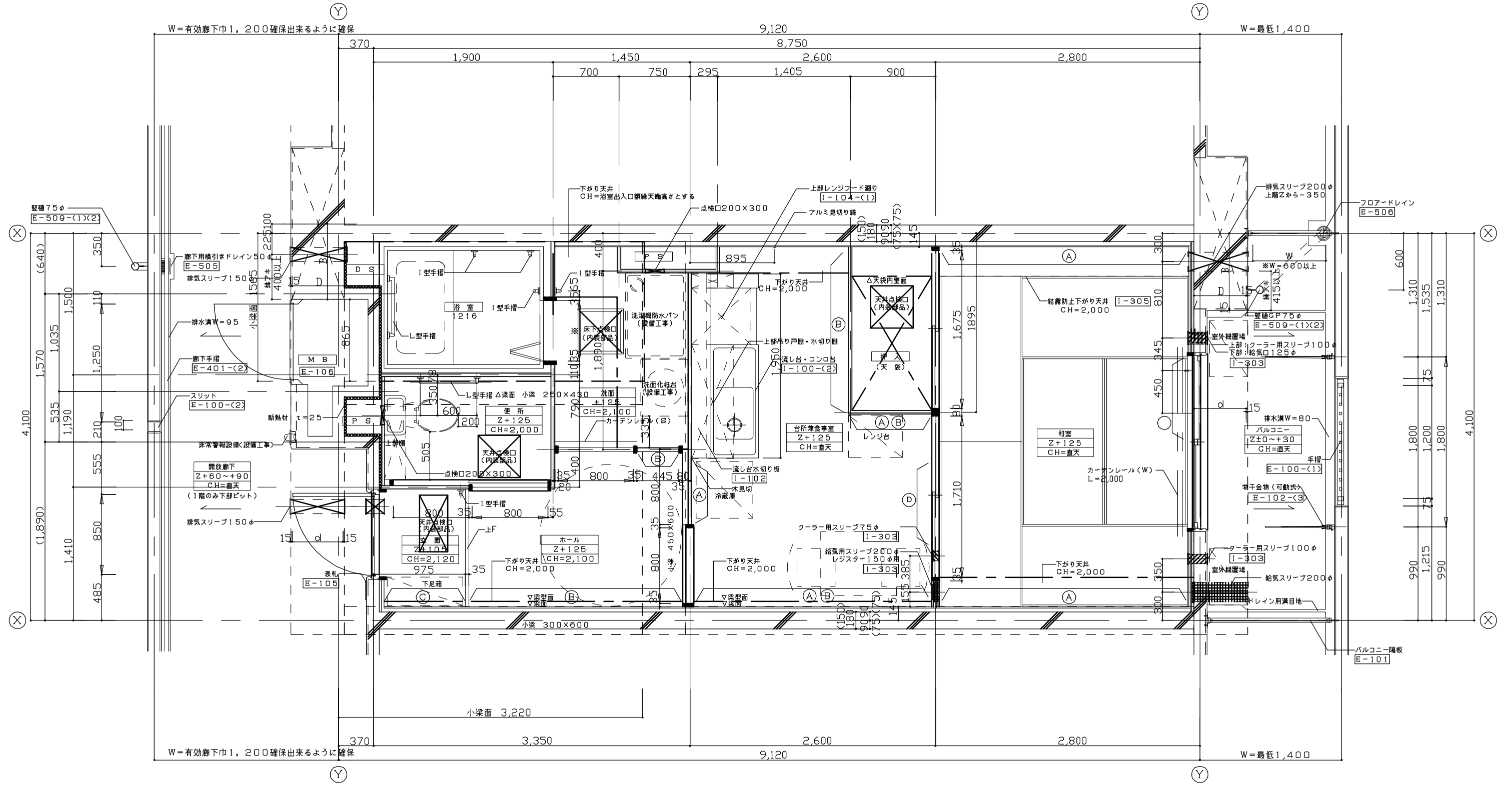
添付図８　標準平面詳細図（１ＤＫ）



凡例

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ(ダクト有り)
- 部分はスラブ天ＳＬ－２８０
- クーラー用スリーブ
- 電気スリーブ
- 部分はスラブ天Ｚ＋６０
- Ｅ－番号　大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
- Ｉ－番号　部分詳細図番号を示す。

室　名
床高さ(ＦＬ)
天井高さ

- Ⓐ 転倒防止付鴨居
- Ⓑ 将来手摺下地補強
- Ⓒ 腰高家具等転落防止金具取付用下地補強
- Ⓓ エアコン取付用下地補強

特記事項

1）　外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下（外壁面から９００ｍｍ迄）には、ポリスチレンフォーム保温材Ｂ類３種（ＪＩＳＡ９５１１）厚さ２５ｍｍを躯体に打ち込む事。

2）　共用廊下、バルコニーのドレイン・竪樋の位置については平面図参照のこと。

3）　特記なき限り、床下点検口は□４５０×４５０、天井点検口は□４５０×４５０とする（内装部品）。

4）　Ｄ・Ｂ寸法は柱巾，ｄ寸法は梁巾を示す（構造図による）。（　）寸法は構造による。

5）　＊印は各メーカー仕様の寸法による。

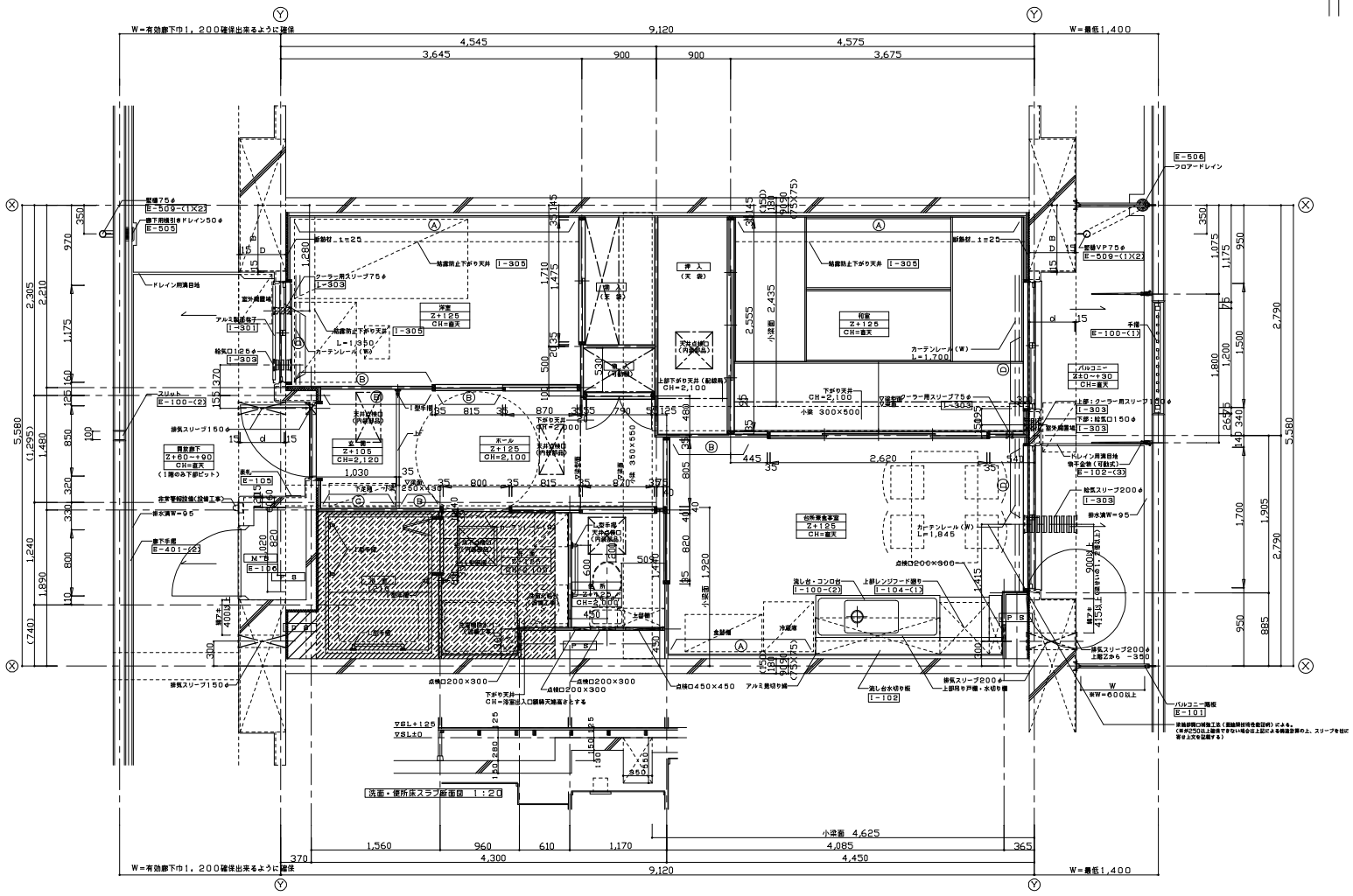
6）　妻面の結露防止下がり天井については、外壁面等（外壁面、ＥＶホールや住居以外の室等に接する面）の場合に設けること。

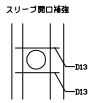
※設計上の留意事項

- （　　）内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
- 階高は、Ｚレベルから大梁構造寸法下、Ｈ＝２,０００を確保すること。
- １階一般住戸は、ＭＡＩハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
- 家具（食卓、食器等）、冷蔵庫は設計時削除のこと。
- 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
- パネル部分壁厚は、合板仕様の場合ｔ40、ＰＢ仕様の場合ｔ50（標準図はｔ40）であるので注意すること。

※階高は２,７５０を基準とする。

添付図８　標準平面詳細図（２ＤＫ）





凡例

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ（ダクト有り）
- 部分はスラブ天ＢＬ－２８０
- Ｅ－番号　大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
- Ｉ－番号　部分詳細図番号を示す。
- クーラー用スリーブ
- 電気スリーブ
- 部分はスラブ天Ｚ＋６０

室　名
床高さ（ＦＬ）
天井高さ

Ⓐ 転倒防止付鴨居
Ⓑ 将来手摺下地補強
Ⓒ 腰高窓具等転落防止金具取付用下地補強
Ⓓ エアコン取付用下地補強

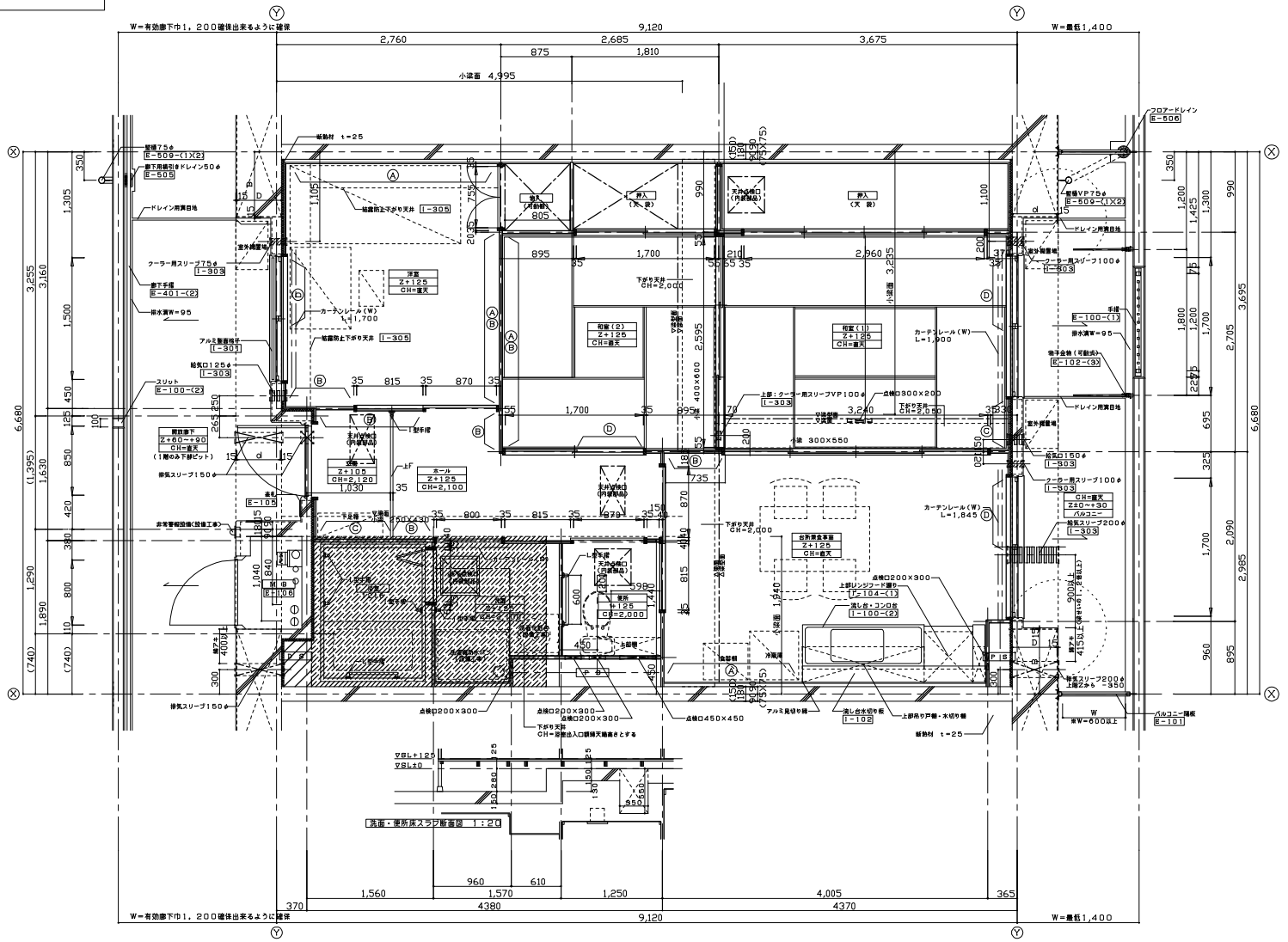
特記事項

1） 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下（外壁面から９００ｍｍ迄）には、ポリスチレンフォーム保温材Ｂ種３種（ＪＩＳＡ９５１１）厚さ２５ｍｍを躯体に打ち込む事。
2） 共用廊下、バルコニーのドレン・竪樋の位置については平面図参照のこと。
3） 特記なき限り、床下点検口は□４５０×４５０、天井点検口は□４５０×４５０とする（内装部品）。
4） Ｄ・Ｂ寸法は柱巾，ｄ寸法は梁巾を示す（構造図による）。（　）寸法は構造による。
5） ＊印はメーカー仕様の寸法による。
6） 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。
　壁面の結露防止下がり天井については、外壁面等（外壁面、ＥＶホールや住居以外の室等に接する面）の場合に設けること。

※設計上の留意事項
・（　　）内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
・階高は、ＺＬベルから大梁構造寸法下、Ｈ＝２，０００を確保すること。
・１階一般住戸は、ＭＡＩハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
・家具（食卓、食器等）、冷蔵庫は設計時削除のこと。
・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
・パネル部分壁厚は、合板仕様の場合＋４０、ＰＢ仕様の場合＋５０（標準図は＋４０）であるので注意すること。

※階高は２，７５０を基準とする。

添付図８　標準平面詳細図（３ＤＫ）



凡例

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ（ダクト有り）
- 部分はスラブ天ＢＬ－２８０
- クーラー用スリーブ
- 電気スリーブ
- 部分はスラブ天Ｚ＋６０
- Ｅ－番号　大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
- Ｉ－番号　部分詳細図番号を示す。

室　名
床高さ(FL)
天井高さ

- Ⓐ 転倒防止付鴨居
- Ⓑ 将来手摺下地補強
- Ⓒ 腰高家具等転落防止金具取付用下地補強
- Ⓓ エアコン取付用下地補強

特記事項

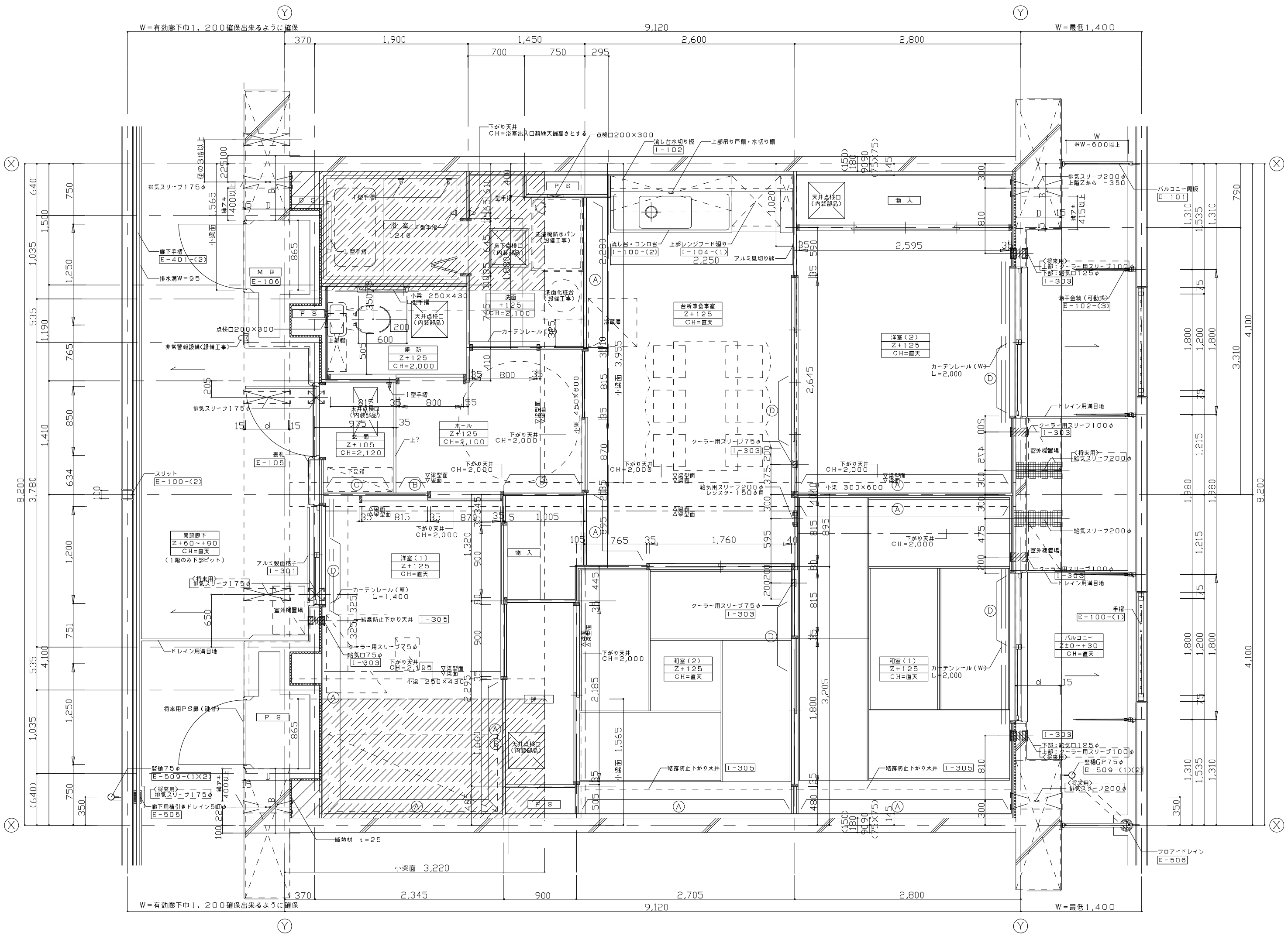
1）　外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下（外壁面から９００ｍｍ迄）には、ポリスチレンフォーム保温材Ｂ種３種（ＪＩＳＡ９５１１）厚さ２５ｍｍを躯体に打ち込む事。
2）　共用廊下、バルコニーのドレン・竪樋の位置については平面図参照のこと。
3）　特記なき限り、床下点検口は□４５０×４５０、天井点検口は□４５０×４５０とする（内装部品）。
4）　Ｄ・Ｂ寸法は柱巾，ｄ寸法は梁巾を示す（構造図による）。（　）寸法は構造による。
5）　※印はメーカー仕様の寸法による。
6）　結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。
　　壁面の結露防止下がり天井については、外壁面等（外壁面、ＥＶホールや住居以外の室等に接する面）の場合に設けること。

※設計上の留意事項

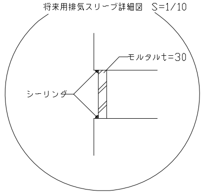
・（　　）内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
・階高は、ＺＬレベルから大梁構造寸法下、Ｈ＝２，０００を確保すること。
・１階一般住戸は、ＭＡＩハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
・家具（食卓、食器等）、冷蔵庫は設計時削除のこと。
・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
・パネル部分壁厚は、合板仕様の場合ｔ４０、ＰＢ仕様の場合ｔ５０（標準図はｔ４０）であるので注意すること。

※階高は２，７５０を基準とする。

添付図８　標準平面詳細図（４ＤＫ）



将来用排気スリーブ詳細図　S=1/10



凡例

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ（ダクト有り）
- 部分はスラブ天ＳＬ－２８０
- Ｅ－番号　大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
- Ｉ－番号　部分詳細図番号を示す。
- クーラー用スリーブ
- 電気スリーブ
- 部分はスラブ天Ｚ＋６０

室　名
床高さ（ＦＬ）
天井高さ

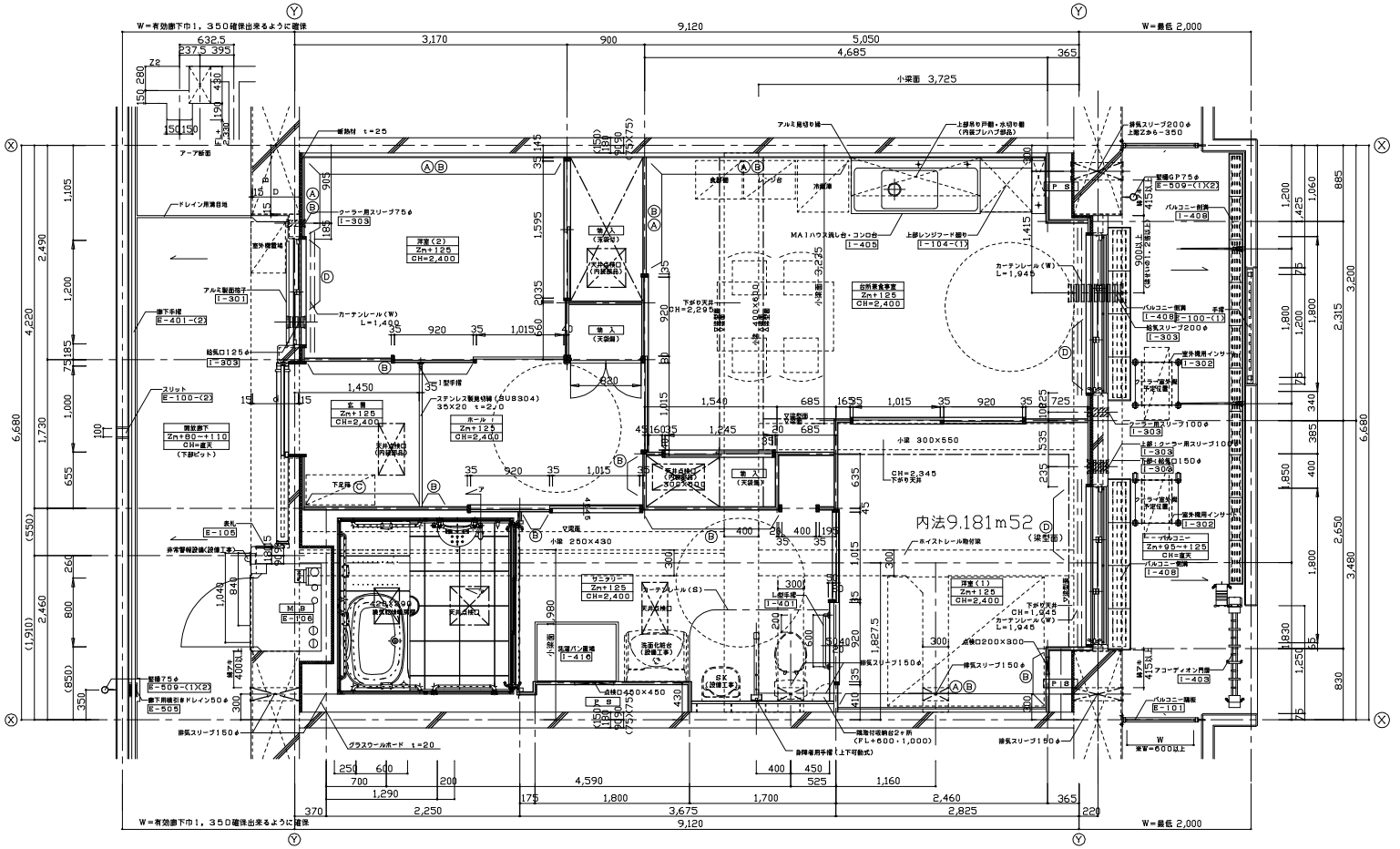
- Ⓐ　転倒防止付鴨居
- Ⓑ　将来手摺下地補強
- Ⓒ　腰高家具等転落防止金具取付用下地補強
- Ⓓ　エアコン取付用下地補強

特記事項

1）　外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下（外壁面から９００ｍｍ迄）には、ポリスチレンフォーム保温材Ｂ類３種（ＪＩＳＡ９５１１）厚さ２５ｍｍを躯体に打ち込む事。
2）　共用廊下、バルコニーのドレイン・竪樋の位置については平面図参照のこと。
3）　特記なき限り、床下点検口は□４５０×４５０、天井点検口は□４５０×４５０とする（内装部品）。
4）　Ｄ・Ｂ寸法は柱巾。ｄ寸法は梁巾を示す（構造図による）。（　）寸法は構造による。
5）　＊印は各メーカー仕様の寸法による。
6）　結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。
妻面の結露防止下がり天井については、外壁面等（外壁面、ＥＶホールや住居以外の室等に接する面）の場合に設けること。
7）　〈将来用〉クーラー、給気スリーブについては、外部はキャップ付、内部はパネル貼りとし開口は躯体のみとする。〈将来用〉排気スリーブについては、モルタル詰めとする。

※設計上の留意事項
・（　　）内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
・階高は、Ｚレベルから大梁構造寸法下、Ｈ＝２,０００を確保すること。
・１階一般住戸は、ＭＡＩハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
・家具（食卓、食器等）、冷蔵庫は設計時削除のこと。
・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
・パネル部分壁厚は、合板仕様の場合t40、ＰＢ仕様の場合t50（標準図はt40）であるので注意すること。
※階高は２,７５０を基準とする。

添付図８　標準平面詳細図（２ＤＫ−ＭＡⅠ）



凡例

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ(ダクト有り)
- 部分はスラブ天8L−280
- E−番号　大阪府営住宅標準詳細設計図番号を示す。
- I−番号　部分詳細図番号を示す。
- クーラー用スリーブ
- 電気スリーブ
- 部分はスラブ天Z＋60

室名
床高さ(FL)
天井高さ

Ⓐ 転倒防止付鴨居
Ⓑ 将来手摺下地補強
Ⓒ 腰高家具等転落防止金具取付用下地補強
Ⓓ エアコン取付用下地補強

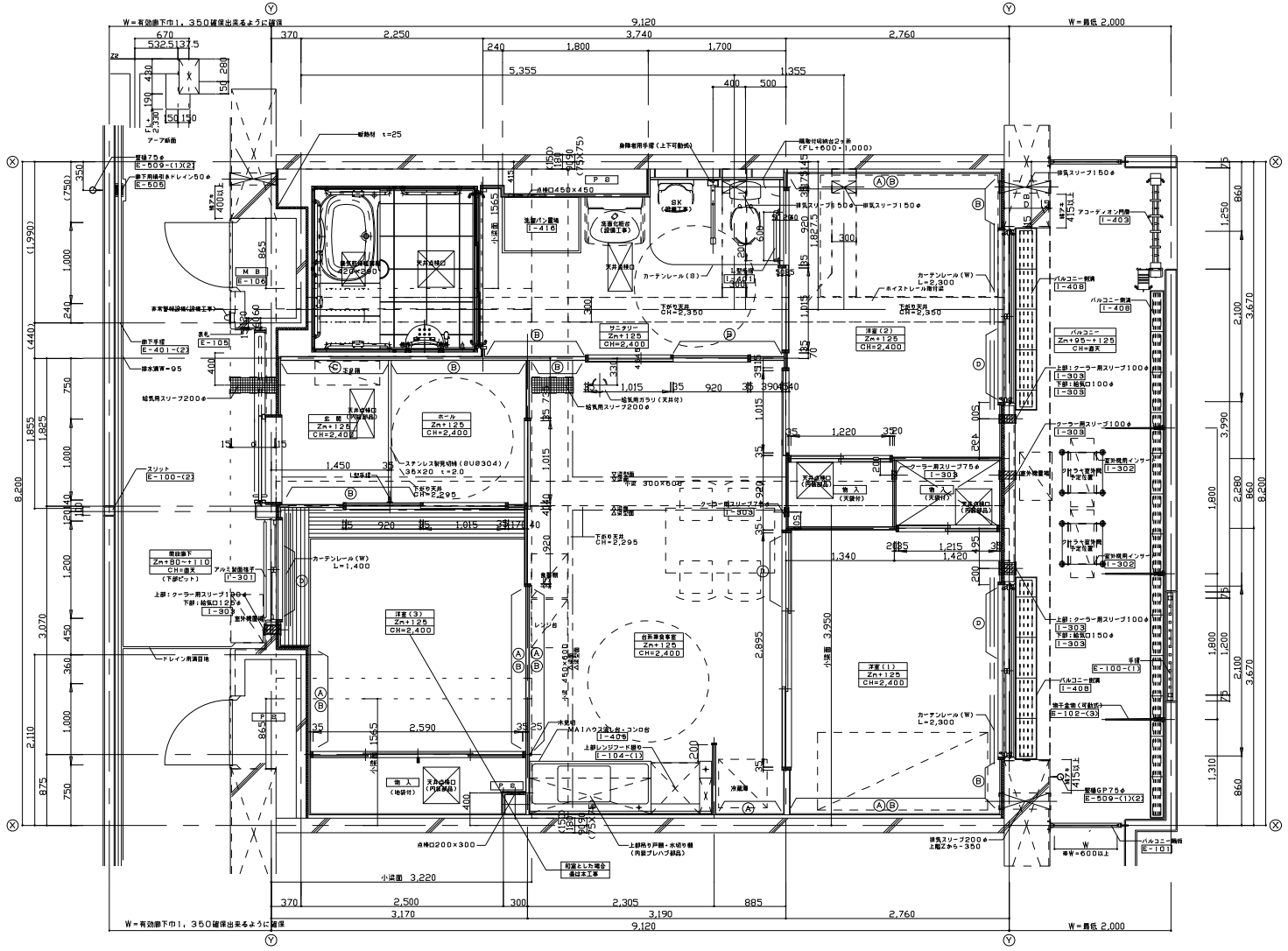
特記事項

1） 外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下（外壁面から900mm迄）には、ポリスチレンフォーム保温材B種3種（ＪＩＳＡ9511）厚さ25mmを躯体に打ち込む事。
2） 共用廊下、バルコニーのドレイン・竪樋の位置については平面図参照のこと。
3） 特記なき限り、床下点検口は□450×450、天井点検口は□450×450とする（内装部品）。
4） D・B寸法は柱巾，d寸法は梁巾を示す（構造図による）。（ ）寸法は構造による。
5） ×印はメーカー仕様の寸法による。
6） 結露防止下がり天井は北側居室の北側壁面に設けること。
　 書斎の結露防止下がり天井については、外壁面等（外壁面、ＥＶホールや住居以外の室等に接する面）の場合に設けること。
7） 台所を妻壁側に設けること。

※設計上の留意事項
- （　）内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
- 階高は、Ｚレベルから大梁構造寸法下、Ｈ＝2,000を確保すること。
- １階一般住戸は、ＭＡＩハウスタイプ外部廊下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
- 家具（食卓、食器等）、冷蔵庫は設計時削除のこと。
- 排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
- パネル部分壁厚は、合板仕様の場合t40、PB仕様の場合t50（標準図はt40）であるので注意すること。

※階高は2,750を基準とする。

添付図８　標準平面詳細図（３ＤＫ－ＭＡＩ）



凡例

- 排気スリーブ
- 給気口
- 給気スリーブ（ダクト有り）
- 部分はスラブ天ＳＬ－２８０
- Ｅ－番号　大阪府宣住モ標準詳細設計図番号を示す。
- Ｉ－番号　部分詳細図番号を示す。
- クーラー用スリーブ
- 電気スリーブ
- 部分はスラブ天Ｚ＋６０

室名
床高さ（FL）
天井高さ

Ⓐ 転倒防止付鴨居
Ⓑ 将来手摺下地補強
Ⓒ 壁高家具等転落防止金具取付用下地補強
Ⓓ エアコン取付用下地補強

特記事項

1）　外壁及び直接外気に面する押入、物入の天井裏スラブ下（外壁面から９００ｍｍ迄）には、ポリスチレンフォーム保温材Ｂ種３種（ＪＩＳＡ９５１１）厚さ２５ｍｍを躯体に打ち込む事。
2）　共用廊下、バルコニーのドレイン・竪樋の位置については平面図参照のこと。
3）　特記なき限り、床下点検口は□４５０×４５０、天井点検口は□４５０×４５０とする（内装部品）。
4）　Ｄ・Ｂ寸法は柱巾，ｄ寸法は梁巾を示す（構造図による）。（　）寸法は構造による。
5）　＊印はメーカー仕様の寸法による。
6）　結露防止下がり天井は玄関居室の北側壁面に設けること。
　　書庫の結露防止下がり天井については、外壁面等（外壁面、ＥＶホールや住居以外の室等に接する面）の場合に設けること。
7）　台所を窓型側に設けること。
8）　洋室(3)の板張りは、和室仕様になった場合のみとする。

※設計上の留意事項

・（　）内寸法は、柱寸法に応じて変動させること。
・階高は、Ｚレベルから大梁構造寸法下、Ｈ＝２，０００を確保すること。
・１階一般住戸は、ＭＡＩハウスタイプ外部扉下とのレベル差を考慮し、スロープを設け階高を検討すること。
・家具（食卓、食器等）、冷蔵庫は設計時削除のこと。
・排気スリーブ位置は設備と打合せの上、スリーブ図にも記入のこと。
・パネル部分壁厚は、合板仕様の場合t40、PB仕様の場合t50（標準図はt40）であるので注意すること。

※階高は２，７５０を基準とする。